

岐阜大学医学市民講座

【主催・企画】
岐阜大学大学院
医学系研究科
【後援】
岐阜県・岐阜県教育委員会
岐阜市・岐阜市教育委員会

『認知症の理解と予防』

参加費 **無料**
定員 **先着150名**
対象 **一般社会人**

平成28年
9月25日(日)
13:30~16:30

岐阜大学医学部記念会館
2階ホール



毎年ご好評をいただいております岐阜大学医学市民講座の今年のテーマは「認知症の理解と予防」です。平成27年に厚生労働省から発表された『認知症施策推進総合戦略』によると我が国における認知症の人の数は平成24年で約462万人、65歳以上高齢者の約7人に1人と推計されています。この数は高齢化の進展に伴いさらに増加が見込まれており、約10年後の平成37年には認知症の人は約700万人前後になり、65歳以上高齢者に対する割合は、約5人に1人となります。認知症の早期診断と症状に応じた適切な医療・介護を提供するとともに、認知症への理解を十分に深め、認知症を予防することが極めて重要と考えられます。

今回の市民講座では、岐阜大学医学部附属病院で活躍中の神経内科・老年内科の医師4名が4つのテーマ、「認知症の気づきと症状」、「わが国における4大認知症」、「認知症のくすりとは非薬物治療」、「認知症の予防と支援」についてわかりやすく解説します。時間の許す限り皆様の疑問・質問にお答えします。認知症について、予防と対応の仕方に理解を深めていただけたら誠に幸いです。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

申込方法

①Eメール

下記ホームページより受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力したものを添付の上、下記メールアドレスへ件名に『市民講座申込み』と明記のうえ、送信してください。

②郵送またはFAX

下記ホームページより受講申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、下記の申込み・問合せ先まで送付してください。なお、受講申込書の入手が困難な方は、①氏名(ふりがな) ②住所 ③性別 ④電話番号 ⑤過去の受講歴 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧修了証書発行希望の有無を記入したものを送付してください。

※郵送の際には、返信用封筒(長型3号・82円切手貼付)を同封願います。

申込期間 : 8月1日(月)から9月16日(金)

申込み
問合せ

〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
岐阜大学医学系研究科・医学部 総務係
【TEL】058(230)6054(直通) 【FAX】058(230)6060
【Eメール】igakubu-28smn@gifu-u.ac.jp
【ホームページ】<http://www.med.gifu-u.ac.jp/shimin>
<電話受付時間> 9:00~16:00(土・日・祝日・8/12・15・16を除く)



<講師・講義内容>

○13:30～ 開講

○13:35～14:05

医学部附属病院
神経内科・老年内科

科長 **犬塚 貴**
(いぬづか たかし)



【認知症の気づきと症状】

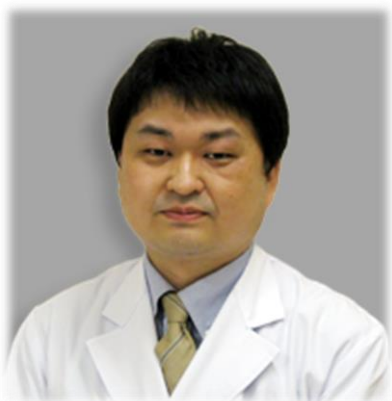
認知症とは、「学習と記憶」、「言葉の表現と理解」、「集中力と注意力」、「段取り実行機能」、「社会や周囲への気遣い」、「五感の認識とできるはずの動作や行動」のうち、一つ以上の障害があり、生活の自立ができない状態をいいます。以下のようなことで認知症に気づくことがあります。

同じことを何度も聞く、置き忘れが多くいつも捜し物をする。財布などを盗まれたと疑う。料理・計算・運転のミスが増えた。新しいことが覚えられない。TVドラマが理解できない。日時・場所をまちがう、慣れた道で迷う。気遣いがなくなり、怒りっぽい。失敗を人のせいにする。一人になると怖がる寂しがる。身だしなみに無頓着、何事も億劫で、趣味にも興味を失う、などです。

○14:05～14:35

医学部附属病院
神経内科・老年内科

講師 **林 祐一**
(はやし ゆういち)



【わが国における4大認知症】

認知症を来たす病気は70～80あるといわれていますが、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の4つで90%以上を占めています。なかでも、アルツハイマー型認知症が半数近くを占め、記憶障害から始まるのが特徴です。中には脳血管性認知症を合併するものもあります。

一方、レビー小体型認知症は、幻視、精神症状、パーキンソン症状が特徴です。それぞれの認知症を初期に区別するためには、頭部MRI検査をはじめとする画像検査や神経心理検査を行う必要があります。

私の講演では、四大認知症に焦点をあて、それぞれの病気の特徴や対処法について概説します。

○14:35～14:50 休憩

○14:50～15:20

【認知症のくすりと非薬物治療】

医学部附属病院
神経内科・老年内科

臨床講師 **吉倉 延亮**
(よしくら のぶあき)



アルツハイマー型認知症は患者さんの数が最も多い認知症です。まだ根治させる治療薬はありませんが、この数年は病状の進行を遅らせる治療薬の種類が増え、患者さんの状態に合わせた薬の使い分けもされるようになってきました。

また、患者さんは経過中に怒りっぽくなったり、不安感が増したり、被害妄想などの“周辺症状”を伴うことがあります。周辺症状は、患者さんの性格や置かれている状況の影響を受けやすく、非薬物治療は薬物治療以上に重要です。介護保険サービスの利用も非薬物治療のひとつと考えられます。

ご家族が認知症を理解することは、治療の第一歩といえますので、認知症の患者さんの心の動きや治療全般について一緒に学びましょう。

○15:20～15:50

【認知症の予防と支援】

医学部附属病院
神経内科・老年内科

副科長 **木村 暁夫**
(きむら あきお)



認知症の予防につながる疫学研究では、アルツハイマー型認知症の危険因子も一つとして、糖尿病が指摘されており、正常耐糖能群に比べ糖尿病群で発症リスクは有意に高いと報告されています。

一方、防御(予防)因子に関しては、以前から「運動」が良いことが指摘されています。また、「和食+野菜+牛乳・乳製品」という食事パターンも発症リスクを低下させるという報告があります。

このように生活習慣病や生活習慣は、アルツハイマー型認知症の発症と密接に関わることが示されており、これらの予防や是正により認知症のリスクを軽減できる可能性があります。

○15:50~15:55 休憩

○15:55~16:20 質疑応答・総合討議

○16:20~ 閉講